

「丹生ダム建設事業に係る検討報告書(素案)」
に対する関係住民からの意見聴取結果【議事
録】

「丹生ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」

に対する関係住民からの意見を聴く場

長浜市

平成28年2月28日（日）

【発表者（長浜－1）】

長浜市高月町の〇〇と申します。発言の機会をいただきましてまことにありがとうございます。

平成11年から10年以上、高時川治水協の会長を務めて参りまして、丹生ダム建設促進に関わりながら、地域の安全と住民の安心確保のために微力ながら尽力をして参りました。幸いこの地方は大きな自然災害もなく、県全体としても国からの災害復旧費は全国でもワーストの上位にあります。住民の皆さんにとっては災害のない住みよいところで、大変ありがたいと安心感が優先して、危機意識が比較的散漫になりやすい、この怖さを実感しながら、防災・減災に務めて参りました。特に、最近は異常気象が進み、降雨も偏在し、局地的で集中化し災害を伴うことも多くなっております。

一方で、干天続きで干ばつのところができる不安定な気象条件の中で、治水と渇水とあわせて考えねばならない状況になって参りました。ところが、高時川、姉川では、ダムとの関係もあり、河川整備計画もできない取り残された地域となってしまいました。

かつて、私は琵琶湖のダム化についてお尋ねしたとき、近畿地方整備局の方から、ダム化はしないと回答をいただきました。そこで、今回の丹生ダム建設事業の検討報告書ですが、治水・渇水ともに淀川への調整機能を琵琶湖に求められておられる。三川合流地点でも、桂川は $5300\text{m}^3/\text{s}$ 、木津川は $6200\text{m}^3/\text{s}$ に対して、宇治川は $1500\text{m}^3/\text{s}$ 、これは天ヶ瀬ダムや宇治市の問題もありますが、鹿跳の掘削も早くから叫ばれながらいまだに手がついていない、これらの対策も今後具体的に計画に入れていただくべきでないか。単に、コストを評価基準にして恒久的な国土の保全につながるのか、疑問視されるところでございます。

続いて、昭和34年9月の伊勢湾台風による琵琶湖周辺の浸水や、平成6年の干ばつで琵琶湖の水位が123cm低下したときなどの姉川、高時川沿川の検証は十分していただいたでしょうか。伊勢湾台風のときは、何日経っても琵琶湖周辺の浸水はおさまらない、下流の淀川の河川敷ではゴルフの打ちっ放しが盛んに行われた現実を見て、当時の滋賀県知事〇

○氏が、南郷の洗堰を爆破しようかと言われた言葉が今も語り継がれています。

平成6年の渇水は湖北地方でも多くの稲が枯れました。かろうじてとれた米は完熟しておらず、売り物にならないものが多く発生し、地下水は枯渇して浅井戸は全域出なくなりました。やむを得ず水道水を使用され、水道も不足しました。その後、高月町では2か所の地下水源を増設しております。

その後は、気象の異常化が進んで参りまして、不安は増幅するばかりです。高時川の瀬切れも年々多くなり、年間100日を超える状態が恒常化して参りました。一昨年は135日間も瀬切れをしております。河川環境はもとより、琵琶湖の生態系にも大きく影響が及んで参りました。流水機能の正常化はもとより、異常渇水時の補給水にしても下流府県の利水も大切ですが、淀川水系の最上流の当地方が、渇水になれば打つ手がないでは、水源地はますます疲弊、過疎化は進み、水源のかん養は今以上に悪化することになります。

人口減少期の中で、今日こそ、若者が定着してくれる地方創生事業に資するよう、コストは多少高くついても国土の保全にもつながるよう、ぜひともA案へ、できるならば発電機能を付けて決定を切望して、終了させていただきます。

どうもありがとうございました。

「丹生ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」

に対する関係住民からの意見を聴く場

長浜市

平成28年2月28日（日）

【発表者（長浜－2）】

余呉町上丹生の〇〇といます。長年ダム対策委員会に関わらせてもらっております。

今ほどいろいろな説明をいただきまして大変ありがとうございます。配布された資料、高時川の現地説明会のこの位置図ですが、これを今日見させていただいてちょっとほっとしたのが、これには、丹生ダムの位置が示されております。この間自治会の方で配られたこのチラシには、丹生ダムの位置が示されてなかったということで、丹生ダムがまだ中止を決定したわけではないということですので、やはりきちっと記載をしてほしいなという気持ちを持っているところです。今日はちょっと安心をさせていただきました。

総合的な評価が出ている中で、検討の場についての不満なんかを言うのは大変むなしのような気もせんでもないんですけども、意見をどこかでは取り入れるというような話も先ほどしていただいたんですけども。済んでからのところでむなしのような気がしますけれども、ちょっと二、三意見を述べさせていただきたいと思います。

まず、検討の場、予断を持たずにというような形で進められおりますけれども、丹生ダムは先ほども説明がありましたように、50年近く前から予備調査、実地の調査、それから地域と締結をして水没地域の土地の買収はされました。それから家屋も移転をされてきた。これらの経緯を全く無視をしているように感じております。開会のときもこの経過については説明をされましたけれども、何かそのあたりを全く無視をしてしまって、他の対策案と並行に考えていく、対等で考えていくというのは、私たち水源地の者にとっては大変不満を感じていたところでございます。ダム案はすぐにでも実施ができる、もう買収まで済んでいるのですぐにでも本体工事に掛かれる状況です。ところが、他の対策案の中で、例えば先ほど説明をいただきました、流水の正常な機能の維持、このあたりの中で、水系間導水、これが一番の有効なものだっというような形で結論が出ているんですけども。これ、本当に実現可能なんだろうかな。先ほど、技術的には実現可能だと説明をいただきました。ところが、実際に関係者との話が全くできてない中で、例えば、琵琶湖から余呉湖に水を引くというあたりのその地域、余呉湖を管理している地域の者がどういう思いを持

っているか、そのあたり一つも考えなくて、この案が有利ですよと、全くこれは無責任な形での評価でないかなと、そういう具合に思っているところです。環境についても、先ほど、必要な措置を取っていくというような話をされましたけど、これも大変実現可能かどうか不安なところでございます。

それから、もう一つ、検討の場におきましては、私たちの意見を高時川の沿川のもの、また水源地の者の意見を十分聞いていただく場がなかった。今日このような場所では、終わってからこういう場所で発表させてもらったりとか、それからペーパーで意見を募集はされますけれども、これは形を整えるためのものか、何か、帳面消しでやっておられるのかな、そんなような感じを受けてしまって大変残念に思うところでございます。検討の場が今の状況中でこんな意見を言っても無駄なことですけれども、そういうような思いも持っているところでございます。

それから、「命と暮らしを守るとために」っていうこと私たち地元にはよく説明に、最初の説明、ダムの必要性のときに何度もこう言われました。私たちの命と暮らしは大変大事なことだ、その重みをもってダム建設を受け入れてきたところですがけれども、50年経ってもなかなかダムの命と暮らしを守る対策がとれていないということで、大変こう、国は何をやっているんだろうなという、検討の場ももう5年も掛かっているということで、大変時間が掛かり過ぎているということで、そのあたり、何とか早く前に進めなければならぬなと思っています。

それから、地元の水源地の者も、地域の活性化を図るためにこのダムを容認してきたということですが、ダムが停滞している中で、大変地域は過疎化、高齢化になってしまっていて、大変淋しい地域になっております。最初に約束していたように、地域の活性化が図れるような対策を早期に講じていただきたいなと思います。

以上でございます。

「丹生ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」

に対する関係住民からの意見を聴く場

長浜市

平成28年2月28日（日）

【発表者（長浜－3）】

それでは発表させていただきます。

私は、丹生ダムの建設は中止にした方がいいと思ってます。前々から流域の検討委員会のときに公募で住民として参加させていただきまして、その場でいろんな意見を申し上げて、何かもう中止になったと思ってたんですけど、またぞろ、こういうふうに出てきたのでちょっと残念に思ってます。

なぜなら、少子高齢化が進み人口は減少し、経済も右肩上がりの時代から正規の社員が減り、非正規の人が労働人口の4割を占めているような低成長の時代に入ってます。国の借金も1,000兆円を超えています。水の利用も節水の意識が高まってどんどん減ってきております。また、自然の環境におきましては、局地的な豪雨が増え、ダムで対応できるのか疑問であります。その、ダムを造るっていうことのために、河川の改修が随分遅れていて、途中から河川の改修に手を付けられるようになったと聞いておりますが、河川の改修や山の保水力を高めるような対策で対応した方が、私は費用対効果の面でも有効だと思います。

ダムが計画されたときの状況と大きく目的が変わっているのも、私は問題だと思います。一旦決めたら途中で引き返せない、コンコルドの過りを犯さないようにすることが大切なのではないのでしょうか。まして、人口は、今年も国全体としては減ってますけども滋賀県は0.2%くらい増えてるってことですが、長浜市は5%くらい人口も減っています。これから10年、20年先を考えて、耕作放棄地とか人口の減少に、果たしてこういうことでお金を使っていいものか、私は費用の面もいろんなことを含めて考えていくべきだと思っております。

私の発表は以上です。ありがとうございました。

「丹生ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」

に対する関係住民からの意見を聴く場

長浜市

平成28年2月28日（日）

【発表者（長浜－4）】

長浜市錦織町の〇〇と申します。この会場に寄せてもらって、今しがた発表の機会をいただきと決断したところでございます。発言の機会をいただきましてありがとうございます。

先日2月21日に、姉川・高時川沿川の現地説明会に行ってきました。小雨・小雪が降る、寒風が吹きすさぶ中での現地説明会でした。当局の方におかれましても関係者の方におかれましても、非常に厳しい天候の中で丁寧なご説明をいただいたものと思っております。一方、地元住民、特に下流域・中流域の住民の皆さんは、この説明会に本当に大勢の方が駆け付けてきていただいたということは、当局の方は十分目に焼き付けていただいたのではないかなと、このように思っております。中・下流域住民のダムに対する関心の度合い、そしてダムは絶対必要なんだという思いが、去る21日の行動に移ったものと、このように思っております。

そんな中で、先ほど来説明を受ける中で、特に私が強く疑問に思っていますのは、コスト面からの導き方が非常に多いわけです。これは一定理解できるところなんですけども、イニシャルコストだけでもって、どうもコスト面で有利である、ないというような導き方をされているような気がしてなりません。特に、水系間導水案なんかを見ますと、これにつきましては、ダムコストというものは膨大な額に及ぶのではないかと、このように思っております。

そういうことで、一番目の、目的別の総合評価の中の洪水調節、そして流水の正常な機能の維持ということについて、イニシャルコストを中心に有利でないという導き方をされているように思えてならない。このことについて、また機会があれば、このランニングコストということにおいても視点を変えて評価をしていただきたいなと、このように思うところでございます。

そして、あと、私がこの丹生ダムのテーマを真剣に考えてからそう日が経ってるわけじゃないんですけども、一番納得できないのは、京都・大阪・兵庫、この流域1400万人の利

水というそのニーズがなくなったということで、今回のダム再検証、そしてその検証の中においては、予断を持って望まないということはありませんけれども、多分に下流域の意見が尊重されているように思えてならないというところでございます。

そういったところから、私どもはこの40年余り、このダムに翻弄されてきたわけございまして、その中で、特に中・下流域においては毎年時間雨量60mmくらいになれば避難勧告が出るというこの実態を踏まえ中で、何としても1億 m^3 のダムというものは望まない。けれども、適正な規模のダムはこの高時川、姉川には必要なんだということを改めて申し上げ、そして、我々、中・下流域住民の安心・安全を担保するために、ぜひお力添えをいただきたいとこのように思います。

以上でございます。どうも、急な意見発表でしたけれども、お聞きいただきましてありがとうございました。

「丹生ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」

に対する関係住民からの意見を聴く場

大阪市

平成28年3月1日（火）

意見なし